

令和2年1月 モニターレポート		担当出張所	伏見出張所
担当区間	宇治川上流両岸 隠元橋～天ヶ瀬ダム(47.5～53.2km) (延長5.7km)		
モニター実施日時	令和2年1月6日 午前10時30分～13時30分 令和2年1月12日 午前10時00分～12時00分 令和2年1月16日 午前10時00分～13時00分 令和2年1月20日 午前10時30分～12時30分		
天候	曇り		
<p>(見出し)</p> <p>ヨシ焼き</p> <p>傷ついた天ヶ瀬つり橋</p> <p>大吉山からの眺望</p> <p>宇治川に岩風呂跡</p> <p>伏見港 伏見閘門の様子</p> <p>宇治川の河川敷に咲くセンダン</p>			
<p>令和2年の始まり</p> <p>宇治川の愛護モニターをはじめて夏の始めでしたが、早いもので季節はめぐり梅の花が咲く時期を迎えています。</p> <p>さらに6月まで、愛護モニター（宇治川）を担当させていただきますので引き続きよろしくお願ひします。</p>			
			
<p>ヨシ焼き</p> <p>伏見区の宇治川河川敷では、春の訪れを告げるヨシ焼きが行われる。</p>			

冬枯れしたヨシに火が放たれ白い煙を上げながら燃え広がる光景は圧巻だ。

国道1号線から24号線にかかる観月橋付近の河川敷一帯が対象。

宇治川河川敷のヨシ原は、西日本では有数の燕のねぐらになっているそうである。

ヨシの新芽の成長や動植物の生態系を維持させるためには、欠かせない。

一時期中断していたが、数年前から再開している。

栃木県の渡良瀬遊水地は、春を告げるヨシ焼きで有名だ。



天ヶ瀬ダムからほど近いところにかかる天ヶ瀬橋(天ヶ瀬吊り橋)の橋柱が見るも無残な姿に橋柱を家に例えると門柱にあたる。昭和17年に架橋され一度流出したあと1996年に再建され現在に至る。「渡るための橋」というよりは『佇むにふさわしい』であり、その橋上から見渡す溪谷は、万華鏡の如く四季で変転し見るものを飽きさせない。老朽化が進んだだけで、これほどまでに傷むものなのだろうか。橋を渡るたびに心を痛めている。

緊急処置が施されていますが、早急に対策を願うのは私だけなのでしょうか。



宇治橋とJR奈良線の橋梁



宇治川から大吉山を望む。

大吉山(仏徳山)からの眺望

宇治橋からほど近い大吉山遊歩道を15分ほど登ると大吉山展望台に到着する。

ここからは、宇治川～宇治の西側一帯が見渡せます。

なかなか登る機会はありませんが、偶にはと遠くポンポン山や天気がよいと六甲が望める場所です。

また、展望台からはゆったり流れる宇治川を一望できる絶好のビューポイント。

宇治川を境にして、現世と来世に分かれる。

宇治神社側を現世・平等院川を来世 宇治橋を渡ると現世と来世を行ったり来たり。

なんだか不思議な気分になります。

宇治川は、古くは平安の時代から川幅や水量・景観において山紫水明の自然美に変化はなく現在まで受け継がれている。

幾多のデベロッパーが虎視眈々とターゲットにしてきた宇治川周辺領域ではあるが、宇治市役所の方々をはじめ関係諸氏のご努力によって景観を損ねずに守られてきました。

これからも、我々ができることは河川の美化に限りなく協力を努める必要があると痛感している。

#### 宇治川岩風呂跡



宇治川沿いの、支流と交わり道路が曲る丁度その角に、嘗て在った料理旅館。

道路から見える部分は既に解体され、しかし其の下に未だに残された残骸。それが廃墟「宇治茶寮」である。

宇治川ラインを通っているとあるところにこのような不自然な建築物が現れる。

昔から気になっていてその正体をみてみたいと思っていました。

なんとも岩風呂が特徴的な旅館型の廃墟ですが気持ち悪くなるので興味本位でもいけないほうがよい。



伏見港の閘門(運搬船のゲート)。水位が違う運河に水門を使って船を往来させていた。

現在は、役割を終え観光船の船着き場となっている。

この水門が面している宇治川は、京都市内に流れる川の中でも自然が多く残っている。

河川敷の整備はすすんでいない。

(意見・感想・処置等)

モニター、ありがとうございました。

伏見のヨシ焼きは、平成25年に再開し、今年も3月9日(月)から28日(土)の間で、風の弱い安全な日、5日間程度を予定しているようです。

3月12日・13日には、堤防からの観察会も計画されています。

天ヶ瀬吊り橋については、宇治市が橋梁長寿命化計画に基づき、修繕工事等を実施しています。現在、令和2年5月までの予定で、床版や高欄の部材取替えを行っています。

河川敷の整備については、平成21年3月に制定された淀川水系河川整備計画において、「川でなければできない利用、川に活かされた利用」を推進するとなっています。

河川環境問題を踏まえて、学識者の意見を聞きながら「川らしい利用の推進」を進めています。

ちなみに、グラウンド等については、地域と川との関わりを踏まえながら、基本的には縮小の方向にあります。

次回もレポート、よろしくお願い致します。